



第89回

## 私のスケッチブック

### 「ヴェンツー山系の谷間の村」

ソー村・プロヴァンス地方（フランス）



やっと春の息吹を感じるプロヴァンスの寒村を描いています。プロヴァンス地方の玄関口・アヴィニオン駅から、車で2時間半少々で着くヴェンツー山系に近いソー村です。大きな峠を2ヶ所越えますが、最後の峠はジェットコースターに乗っているような急勾配の連続。村に入る最後のカーブを曲がった家並みが、この景色。

リュベロン地方からヴェンツー山系、そしてヴェルドン地方を繋ぐ道は「ラベンダー街道」とも呼ばれ、その中心地がソー村です。ピーター・メイルの著書「南仏プロヴァンスの12か月」以来、フランスのラベンダー畑と云えば即プロヴァンス地方のイメージが定着。その中でもソー村の一面に広がる畑は正に絶景です。刈入れ時の7月には、畑から吹き抜ける風と刈り取られたラベンダーを積んだトラックが通り過ぎるとラベンダー・シャワー。この地域の品種は最高級で、繊細にして

優しい香りが特長。標高700mを過ぎると香水の原料となる品種が栽培されています。

ソー村は、古代ローマ時代に高台に築かれた遺跡の村ですから見渡す景色は絶景。また街中に「アンドレ・ボワイエ」と云うパティスリーがあり、ここは創業1847年とも云われる元祖スガー屋。この店が発祥の店と云われますから、つつい試食。ラベンダーの蜂蜜とアーモンドを練って出来上がった逸品ですが、粘りが強くて歯に絡んで困ります。しかし名物ならばと御土産にGet。大量に買い込むと、かさんでキャリーバッグがパンパン！

ラベンダーは安眠効果があり、何度かお世話になった写真家・橋本俊介氏のお宅でも奥様がラベンダー入りの枕を準備してくれていますから安眠です。お友達や同僚への洒落た御土産に、ラベンダーの匂い袋を沢山買い求めた懐かしい思い出。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。  
2018年開催「第69回 全国カレンダー展」に10度目の入選を果たし、その実力を発揮する。  
<http://www.urban.ne.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

検索